



一般社団法人 電波産業会  
Association of Radio  
Industries and Businesses

No.835 2012年5月28日

ARIBからのお知らせ

第 97 回電波利用懇話会開催のお知らせ  
「ワイヤレス電力伝送の実用化に向けた課題と今後の展望について」

ワイヤレス電力伝送は、MIT（マサチューセッツ工科大学）において磁気共鳴を用いた方式が提案されたことを契機にして、携帯電話や EV（電気自動車）等への充電を行うための技術として、その実用化に向けた取組みが多くの機関において行われています。

今回の電波利用懇話会においては、ブロードバンドワイヤレスフォーラムに設けられたワイヤレス電力伝送ワーキンググループのリーダーであり、ワイヤレス電力伝送の実用化の研究開発に長年従事されてきた庄木 裕樹氏をお迎えし、将来期待されるワイヤレス電力伝送の市場、ワイヤレス電力伝送方式の技術動向、実用化に向けて取り組むべき課題及び今後の展望について、ブロードバンドワイヤレスフォーラムでの取組みも交えながら、ご講演を頂くこととなりました。

会員の皆様には、是非ともご参加下さいますようにご案内申し上げます。

記

- 1 日 時 : 平成 24 年 6 月 19 日(火) 午前 10 時から 11 時 30 分まで
- 2 場 所 : 一般社団法人電波産業会 会議室 (日土地ビル 11 階)  
東京都千代田区霞が関 1-4-1 TEL:03-5510-8592
- 3 題 名 : ワイヤレス電力伝送の実用化に向けた課題と今後の展望について
- 4 講 師 : ブロードバンドワイヤレスフォーラム  
ワイヤレス電力伝送ワーキング リーダー 庄木 裕樹 氏  
(株東芝 研究開発センター ワイヤレスシステムラボラトリー 研究主幹)
- 5 対 象 : ARIB 正会員及び賛助会員
- 6 参加者 : 70名程度 (定員になり次第締め切らせていただきます。)
- 7 申込先 : 当会ホームページ (<http://www.arib.or.jp/>) の「講演会等開催案内」まで
- 8 参加費 : 無料
- 9 問合せ先: 企画国際部 電波利用懇話会事務局 佐藤 まで  
TEL: 03-5510-8592 e-mail:arib-seminar2012@arib.or.jp

### 第3回日中 TDD 協力フォーラム/GTI アドホックセミナーを開催

第3回日中 TDD 協力フォーラム/GTI(Global TD-LTE Initiative)アドホックセミナーが、2012年4月25、26日の両日にわたり、東京のキャピトルホテル東急で開催されました。

本フォーラムは、XGP フォーラムと中国 TD 産業連盟（以下 TDIA）の主催、また ARIB、YRP の協賛により、過去2回中国にて開催されましたが、今回は TD-LTE の普及を目指す団体である GTI も主催に加わり、第3回目として高度化 XGP の商用サービスが始まっている日本国内で開催されたものです。

日中両国の TDD 産業推進、マーケット推進を目的として、日中をはじめ米国、フランス、英国、ロシア、ドイツ、オーストラリア、タイ、サウジアラビア、韓国など13の国と地域の通信事業者と関連企業から合計211名が参加し、TDD 次世代通信技術及びマーケットの最新発展状況に関して交流を深めることができました。

本フォーラムでは、日中両国政府、関連団体、通信事業者、TDD 業界の主要な企業を招待し、日本における XGP の発展状況、中国における 3G から TD-LTE への進化の状況、TD-LTE のグローバル展開及び周波数状況、端末やチップセットの開発状況、グローバルマーケットへのサービスやアプリケーションの展開などの発表がありました。また会場では、ネットワーク機器や端末、応用サービスなどの展示も行われ、多くの参加者が熱心に見学する光景も見られました。



フォーラムの様子



展示会場の風景

### 第184回業務委員会を開催

第184回業務委員会を開催しましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時 平成24年5月23日(水) 午後2時00分から4時00分まで
- 2 場所 当会第2会議室
- 3 議事概要
  - (1) 第2回定時総会等の開催についての説明
  - (2) 標準規格のダウンロード・サービスの提供状況についての報告
  - (3) 電波の日記念講演会の開催についての説明
  - (4) 緊急災害時における放送・通信に関する要望についての説明
  - (5) AWG-12 会合の結果についての報告
  - (6) oneM2M パートナーシップ設立に向けての進捗状況についての報告

## ワイヤレスジャパン2012で ファーウェイ・ジャパン社長閻力大が基調講演

華為技術日本株式会社

2012年5月30日から6月1日まで東京ビッグサイトで開催される「ワイヤレスジャパン2012」において、ファーウェイ・ジャパン代表取締役社長 閻力大（エン・リダ）による基調講演「Connected Possibilities - ファーウェイのモバイル事業戦略」が行われます。ぜひ皆さまお誘い合っご来場下さい。

ワイヤレスジャパン2012 基調講演 アジアワイヤレスサミット2012

5月30日（水） 15:15-15:45

聴講は事前のご登録が必要です。下記URLからお申込み下さい。（無料）

<http://www8.ric.co.jp/expo/wj/conference.html>

### □ファーウェイについて

今年、創業25周年を迎えるファーウェイ・テクノロジーズ（華為技術、Huawei Technologies）は、1987年中国広東省深圳（シンセン）市にて電話交換機を扱う従業員僅か6名の代理店から始まりました。現在、従業員数14万人を超えるグローバル通信ネットワーク・ソリューションプロバイダーとして、世界150カ国以上の国で事業を展開し、世界人口の3分の1におよぶ通信環境を構築するお手伝いをしております。

オープンで協調性のあるLTE環境の構築を目指すべく、標準化活動にも力を入れており、自社の特許や技術仕様を業界パートナーと共有しています。2011年第3四半期時点で3GPPに提出したLTE/EPC関連の仕様は7900件を超えており、うちLTE標準仕様（RAN1-RAN3）は 230件以上の提出が承認を受けています。

2005年に設立されたファーウェイ・ジャパン（華為技術日本、Huawei Japan）は今年設立から7年、お客さま志向を核として成長を続ける日本法人として、従業員485名（2012年4月時点）のうち約70%が現地採用という構成をベースとしながら、東京、大阪を含む計4拠点のオフィスより、日本のお客さまに最も価値のある製品・サービスを提供しています。

詳しくは日本語ホームページをご覧ください。

ファーウェイ・ジャパン ホームページ（日本語）

<http://www.huawei.com/jp/>



日本のお客さまに向けた定期発刊広報誌「HuaWave」。ファーウェイのビジネスはもちろん、世界の通信事業者のベストプラクティスを日本語で丁寧に紹介します。

（本誌はファーウェイ・ジャパンHPよりダウンロードしてお読みいただくことができます）

## モバイルコマース部会 推進専門委員会

主査 山本 正行

(山本国際コンサルタンツ代表)



モバイルコマース部会・推進専門委員会主査の山本正行と申します。本委員会ではモバイルコマースの普及促進を目的とした課題検討やビジネスモデルの検証、日本の先進事例の海外へのプロパガンダなどの役割を担っています。モバイル先進国である日本は、デジタルコンテンツやモバイルコマースが早熟し、世界に先駆けて非接触 IC チップ(FeliCa)を組み込んだ「おサイフケータイ」のサービスを商用化しました。「おサイフケータイ」は諸外国も注目する先進サービスとなりましたが、ほどなく海外で同様なサービスが始まると、海外では Type A,B 方式による標準化が進み、先に商用化された FeliCa による日本版と仕様が異なるという悩ましい状態に陥りました。今話題の NFC(Near Field Communication)は非接触 IC に関連する新しい標準規格ですが、FeliCa と Type A,B の方式の違いを埋める一面もあるため、その導入効果が期待されます。

私と ARIB との関わりは、モバイルコマース部会の前組織にあたる「モバイル IT フォーラム(mITF)」での活動に始まります。2002 年当時私は決済カードの国際ブランド「ビザ」に所属しており、カードの IC チップ化(EMV)などを担当していました。当時 mITF ではモバイルコマースの普及へ向けた検討を行っており、そのため決済に関する国際標準化に関与する立場から mITF に参加させていただきました。当時まだおサイフケータイはなく、それに先立ち、赤外線インターフェースを使った独特なクレジットカードサービス(「Kei-Credit」、「Visappi」など)を実証しましたが、当時の一般利用者にはまだまだ奇異なイメージを与えていたようです。

mITF は 2009 年以降、高度無線通信研究委員会・モバイルコマース部会となって活動を続けています。現在の日本におけるおサイフケータイの普及や、海外での NFC 各種サービスの商用化の状況に接し、赤外線で実験した頃を思い起こせば隔世の感を禁じ得ない思いです。今後はスマートフォンがモバイルの中心的プラットフォームとして寄与することは明らかですが、そのような趨勢をみて、今後より多くの利用者に歓迎されるモバイルコマーススキームを提案し、標準化やビジネスモデルの確立に寄与していきたいと考えています。

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS  
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル11F  
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103  
<http://www.arib.or.jp> E-mail [arib\\_news@arib.or.jp](mailto:arib_news@arib.or.jp)